



景気見通し調査 調査結果

令和3年3月期

福井商工会議所 中小企業総合支援センター

【調査の概要】

当調査は、福井商工会議所管内の小規模事業所を中心とした短期的な景気動向を把握するため、毎年3月・6月・9月・12月の年4回実施している。

調査時期：令和3年3月2日(火)～3月10日(水)

調査方法：FAXによる送付、回収

電話での回答依頼、回収

Google フォームからの回答受付

調査対象：福井商工会議所の会員 小規模事業所を中心に500件を抽出

(製造業・建設業・その他…従業員20人以下の事業所

卸売業・小売業・サービス業…従業員5人以下の事業所)

回答数：271件(回答率 54.2%)

従業員数	製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	合計
5名以内	20	25	32	22	61	160(59.0%)
6～10名以内	13	17	6	5	8	49(18.1%)
11名以上	22	13	4	12	11	62(22.9%)
小計	55(20.3%)	55(20.3%)	42(15.5%)	39(14.4%)	80(29.5%)	271(100.0%)

D I 値とは…ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇した」とする企業割合から、「悪い」「下落した」とする企業割合を差し引いた値。「現在」D I 値は3ヵ月前を基準とした現在の状況、「先行」D I 値は今後3ヵ月後の状況を予測したもの。

【調査結果の概要】

回復は緩やかになるも、今後も続く見通し

①業界の景況

景況感は R2. 12 月期と変わらないものの、先行きは回復の予想。

②自社の景況

景況感は 3 期連続で改善。R2. 3 月期並みに回復。

③売上高(受注高)

3 期連続で回復。また、小売業の回復にあわせて卸売業でも回復の兆し。

④販売価格

売上高と連動し、2 期連続で回復。小売業では現在・先行 DI 値共に回復。

⑤仕入価格

全業種で改善するも、今後は小売業を除く業種で仕入価格の上昇が見込まれる。

⑥採算(収支)

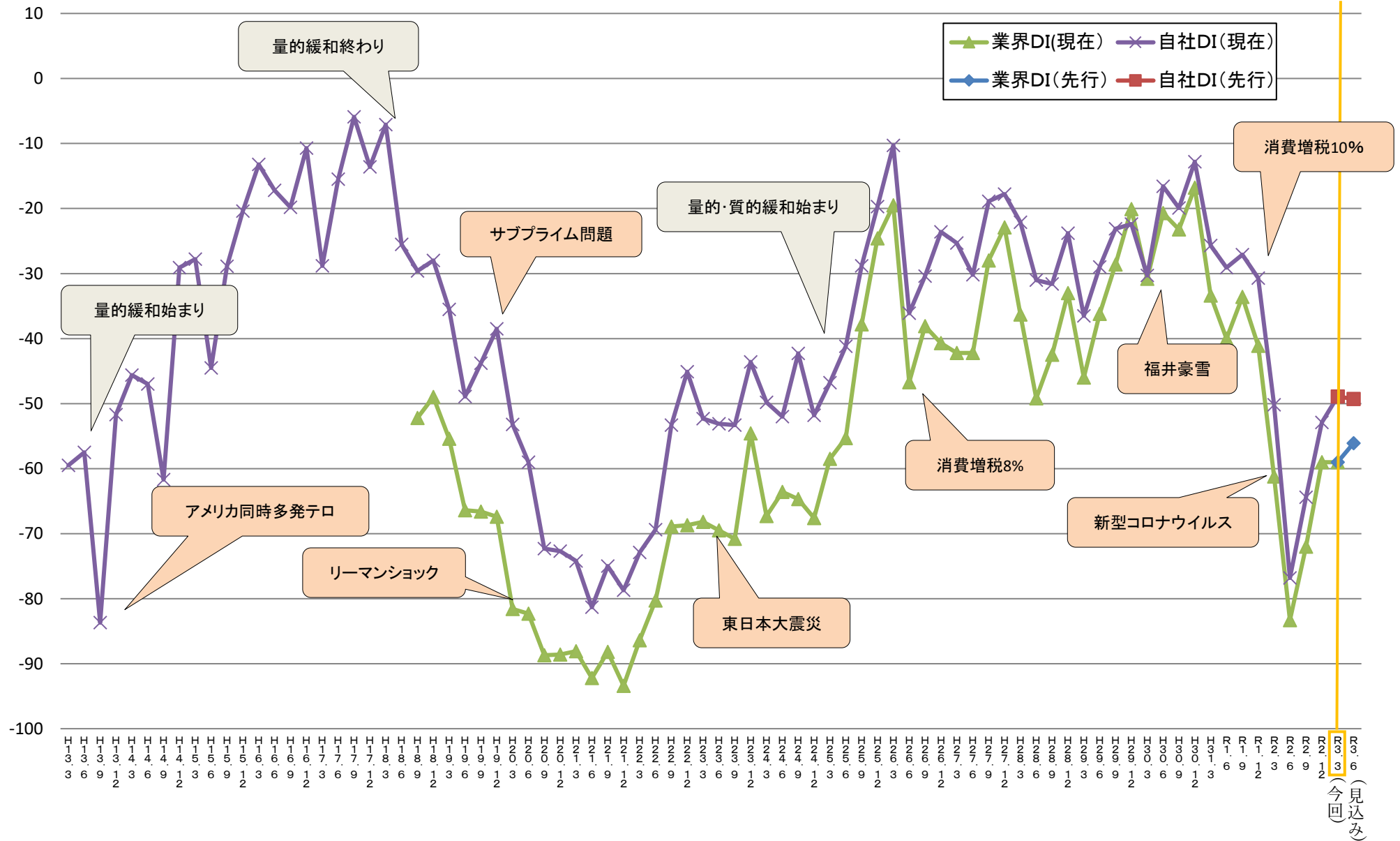
コロナウイルスの影響後（R2. 3 月期）の水準で推移。飲食業では今後も厳しい状況が続く。

【特別調査（税込価格表示、インボイス制度への認知度・取り組み調査）の概要】

※税込価格表示（総額表示）については、一般消費者が顧客となる事業所にのみ回答を求めた

- 令和 3 年 4 月 1 日より始まる税込価格表示（総額表示）については、「知っている」との回答は 74.3%となった。
- 税込価格表示の準備が「既に完了している」事業所は 35.0%に留まったが、「現在準備中」「今から準備をはじめる」の回答を合わせると、9 割超の事業所が準備に取り組んでいた。
- 令和 5 年 10 月 1 日から始まる適格請求書等保存方式（インボイス制度）について「知っている」との回答は 1 割強となり、認知度は低かった。

福井商工会議所「景気見通し調査」 業界／自社景況DI推移

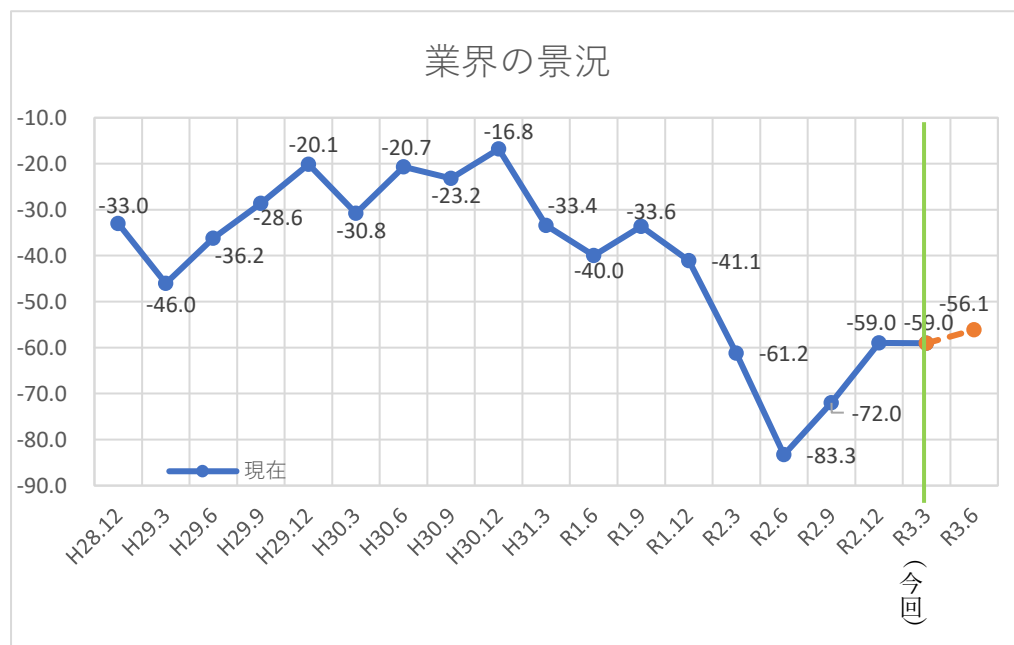


① 一業界の景況

【景況に大きな変化はないものの、先行きは回復の兆しも】

業界全体の現在DI値は▲59.0となり、前回調査時（R2.12月期）と同値となった。一方、先行DI値は▲56.1と2.9ポイント改善の見通しとなった。先行DI値から現在DI値を引いた変化幅はH30.9月期調査以降、10期ぶりのプラスとなったことから、わずかながら景況感に回復の兆しがうかがえる結果となった。

業種別にみると、建設業は現在DI値▲16.4と11.9ポイント改善し、3期連続で回復していた。小売業では現在DI値が▲57.1と13.9ポイント回復したのに加え、先行DI値も▲47.6と9.5ポイントの回復が見込まれた。一方、前回調査時（R2.12月期）に13.4ポイントの回復が見られたサービス業では現在DI値が▲72.5と11.8ポイントの減少となった。そこで、サービス業を飲食業とそれ以外の業種に分けて見てみると、飲食業の現在・先行DI値は共に▲85.7と悪く、コロナウイルスの影響から自粛ムードが続いていることで、客足が依然として戻っていないようであった。



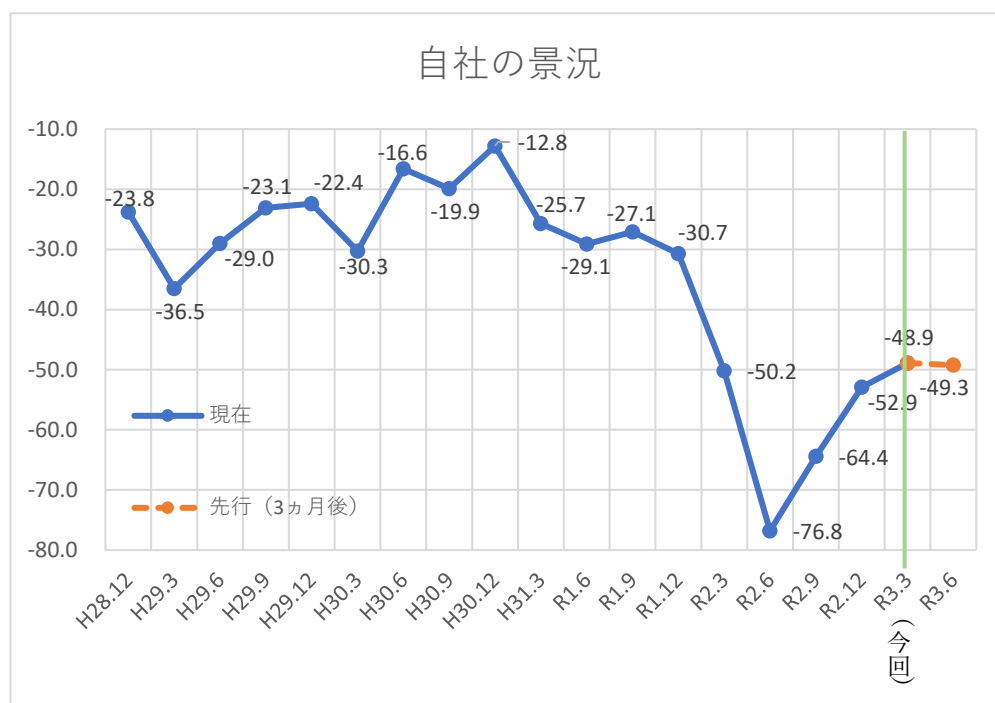
① 業界の景況	2021年1～3月（今期）		2021年4～6月（見通し）	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI－現在DI)
全業種	-59.0	0.0	-56.1	2.9
製造業	-67.3	-3.5	-63.0	4.3
建設業	-16.4	11.9	-25.5	-9.1
小売業	-57.1	13.9	-47.6	9.5
卸売業	-82.1	-0.8	-82.1	0.0
サービス業	-72.5	-11.8	-64.6	7.9

② ー自社の景況ー

【3期連続回復するも、飲食業では厳しい状況が続く】

自社の景況は、現在DI値が▲48.9（+4.0ポイント）と3期連続の回復となった。先行DI値も▲49.3とほぼ現状のまま推移との見通しであった。

業種別にみると、建設業では現在DI値▲3.6と18.1ポイントの大幅回復したものの、先行きは悪化の見込みとなった。しかし、小売業は現在DI値▲43.9の9.4ポイント回復に加え、先行DI値も▲39.0も4.9ポイント回復の見通しとなり、現在・先行DI値の両方が唯一回復した。一方、現在DI値が2.0ポイント減少したサービス業を業界の景況と同様に飲食業とそれ以外の業種に分けて分析してみると、飲食業の現在・先行DI値は共に▲82.1であり、他業種と比べ自社の景況が回復しておらず、今後も厳しい状況が続くとの予想となった。



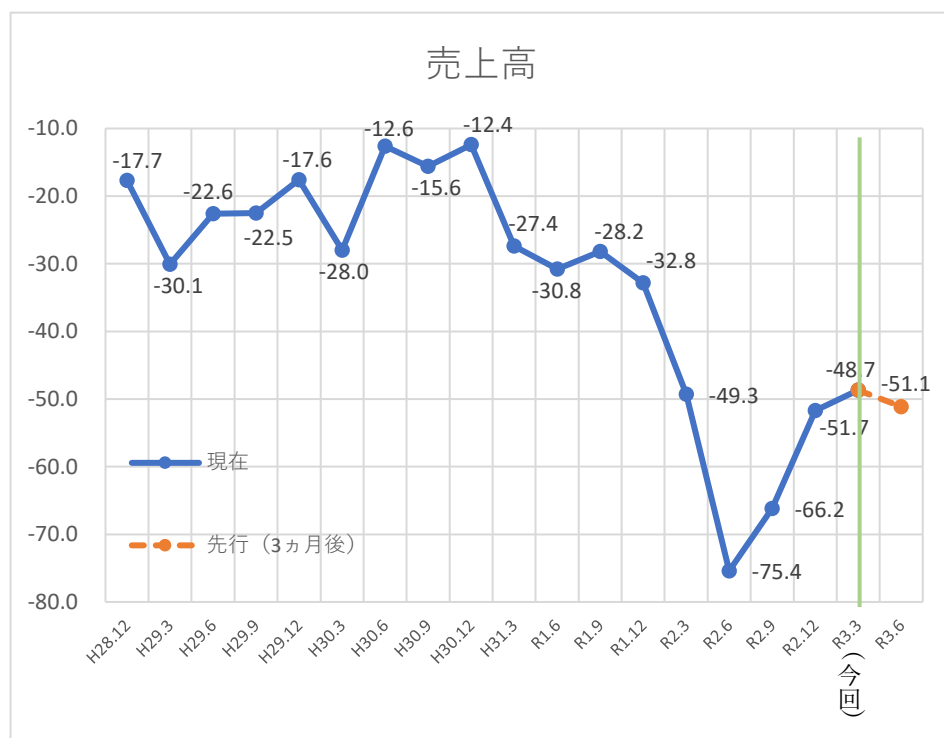
② 自社の景況	2021年1～3月（今期）		2021年4～6月（見通し）	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI－現在DI)
全業種	-48.9	4.0	-49.3	-0.4
製造業	-63.6	-4.0	-59.3	4.3
建設業	-3.6	18.1	-16.4	-12.8
小売業	-43.9	9.4	-39.0	4.9
卸売業	-66.7	5.2	-66.7	0.0
サービス業	-63.8	-2.0	-62.0	1.8

③ 一売上高（受注高） —

【小売業の回復と連動し卸売業でも回復の兆し】

売上高（受注高）の現在DI値は▲48.7と3.0ポイント回復し、3期連続での回復となった。一方で、先行DI値は▲51.1と2.4ポイントの下落の見通しとなった。

業種別にみると、小売業は、2期連続して15ポイント以上の大幅回復となり、先行DI値も回復予想となった。また、小売業の回復に併せて、卸売業も連動して回復の予想となった。



③売上高	2021 年 1～3 月（今期）		2021 年 4～6 月（見通し）	
	現在 D I 値	変化幅	先行 D I 値	変化幅 (先行 D I - 現在 D I)
全業種	-48.7	3.0	-51.1	-2.4
製造業	-52.7	3.8	-59.3	-6.6
建設業	-5.6	11.8	-23.6	-18.0
小売業	-41.5	16.6	-39.0	2.5
卸売業	-74.4	3.0	-64.1	10.3
サービス業	-66.3	-8.1	-64.6	1.7

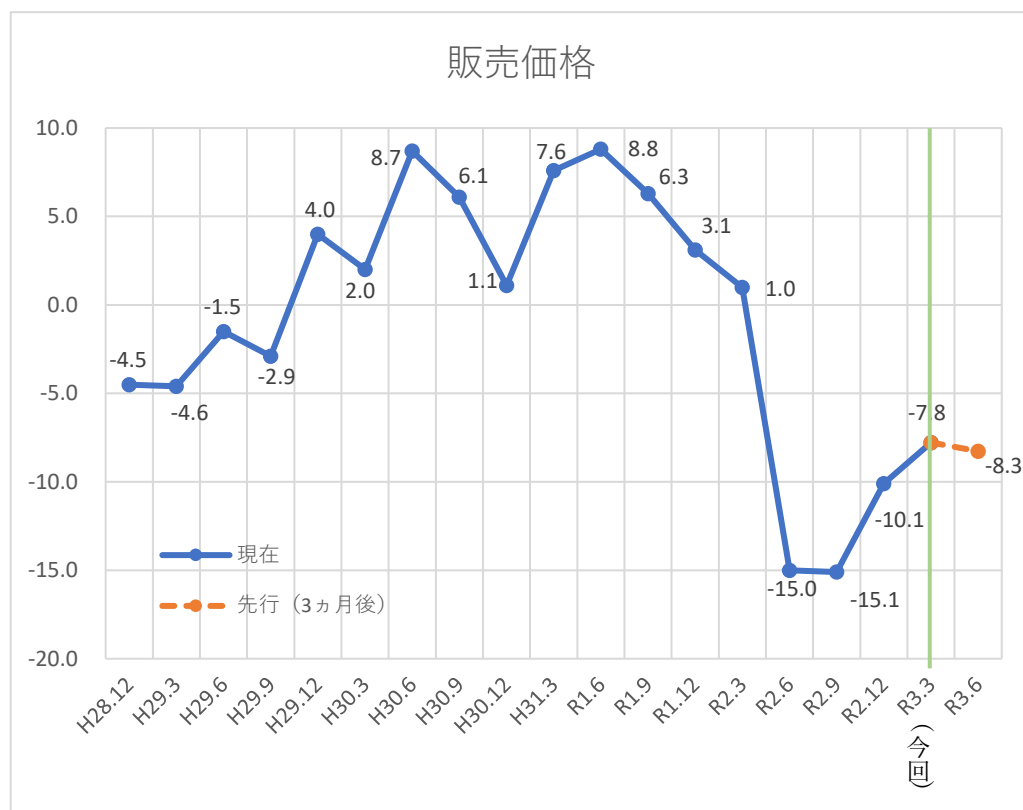
④ ―販売価格―

【小売業で大幅回復 今後も改善の予想】

販売価格の現在 DI 値は▲7.8 で 2.3 ポイント回復し、まだ DI 値はマイナス圏内ではあるものの、2 期連続での回復となった。

業種別に見ると、小売・卸売業は共に 10 ポイント以上の回復だが、サービス業では 10.1 ポイント減少し、明暗が分かれる結果となった。

サービス業を飲食業とそれ以外の業種でわけて見てみると、飲食業の現在・先行 DI 値は▲7.4 だったのに対し、それ以外の業種では現在 DI 値▲17.3、先行 DI 値▲15.7 と飲食業以外の業種では販売価格が大きく落ち込んでいることが見て取れた。



④販売価格	2021 年 1～3 月（今期）		2021 年 4～6 月（見通し）	
	現在 D I 値	変化幅	先行 D I 値	変化幅 (先行 D I - 現在 D I)
全業種	-7.8	2.3	-8.3	-0.5
製造業	-7.3	5.7	-11.1	-3.8
建設業	-5.5	1.2	-9.3	-3.8
小売業	-2.4	13.7	2.4	4.8
卸売業	-5.1	10.5	-5.1	0.0
サービス業	-13.9	-10.1	-12.8	1.1

⑤ 一仕入価格一

【全業種で回復も、予断を許さない状況が続く】

仕入価格の現在 DI 値は▲14.9 となり、前回調査時（R2.12 月期）から 7.2 ポイント回復したが、先行 DI では▲17.4 と 2.5 ポイントの下落の予想となった。

業種別に見ると、現在 DI 値は全業種で改善するも、先行 DI 値では小売業を除いた業種でポイントの下落が見られた。また、サービス業を飲食業とその他業種で分けて見ると、飲食業の現在 DI 値▲14.8、先行 DI 値▲25.9 と大きく悪化する見込みとなった一方で、その他業種では、現在 DI 値▲2.0、先行 DI 値 0.0 と改善が見込まれた。



⑤仕入価格	2021 年 1～3 月（今期）		2021 年 4～6 月（見通し）	
	現在 D I 値	変化幅	先行 D I 値	変化幅 (先行 D I - 現在 D I)
全業種	-14.9	7.2	-17.4	-2.5
製造業	-12.7	4.7	-13.0	-0.3
建設業	-20.0	4.4	-25.9	-5.9
小売業	-21.4	5.3	-14.6	6.8
卸売業	-20.5	7.6	-30.8	-10.3
サービス業	-6.4	11.2	-9.1	-2.7

⑥ ー採算（収支）ー

【コロナウイルス影響後と同水準で推移】

採算（収支）状況を表す現在 DI 値は▲48.7 と前回調査時（R2.12 月期）から 1.3 ポイント減少した。一方で、先行 DI 値は▲45.4 と 3.3 ポイント回復し、コロナウイルスの影響が出始めた R2.3 期調査時とほぼ並ぶ数値となった。

業種別に見ると、売上高に連動し製造業・建設業・卸売業で現在 DI 値が回復した。また、現在 DI 値が大幅に落ち込んだサービス業を飲食業とそれ以外の業種でみると、飲食業の現在・先行 DI 値は▲89.3 と他業種と比べ低く、コロナウイルスの影響が特に強く現れていた。



⑥採算	2021 年 1～3 月（今期）		2021 年 4～6 月（見通し）	
	現在 D I 値	変化幅	先行 D I 値	変化幅 (先行 D I - 現在 D I)
全業種	-48.7	-1.3	-45.4	3.3
製造業	-45.5	11.0	-42.6	2.9
建設業	-10.9	8.7	-16.4	-5.5
小売業	-50.0	-1.6	-42.9	7.1
卸売業	-64.1	4.7	-59.0	5.1
サービス業	-68.8	-18.8	-62.0	6.8

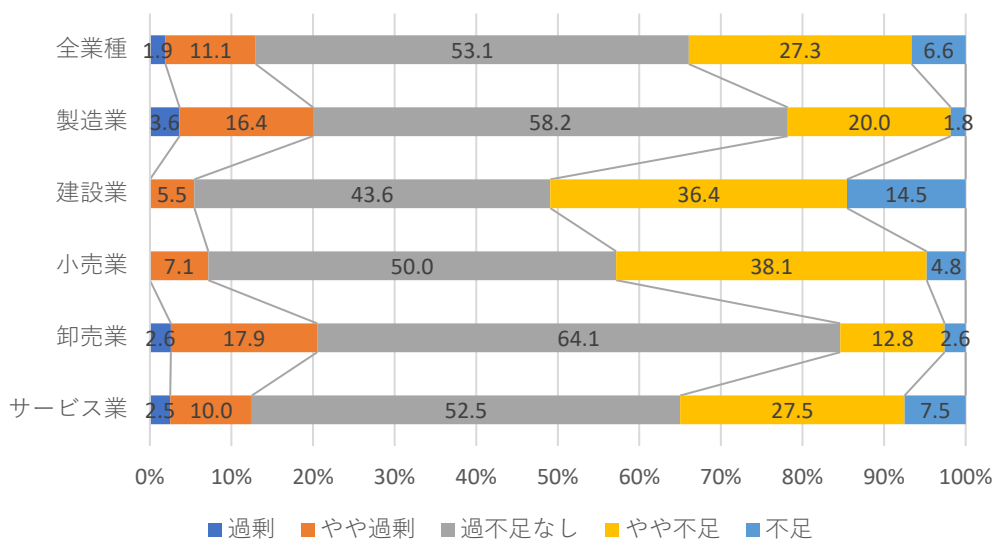
⑦ ー労働力ー

【建設業の不足感は改善、小売業は景況に連動しやや不足感高まる】

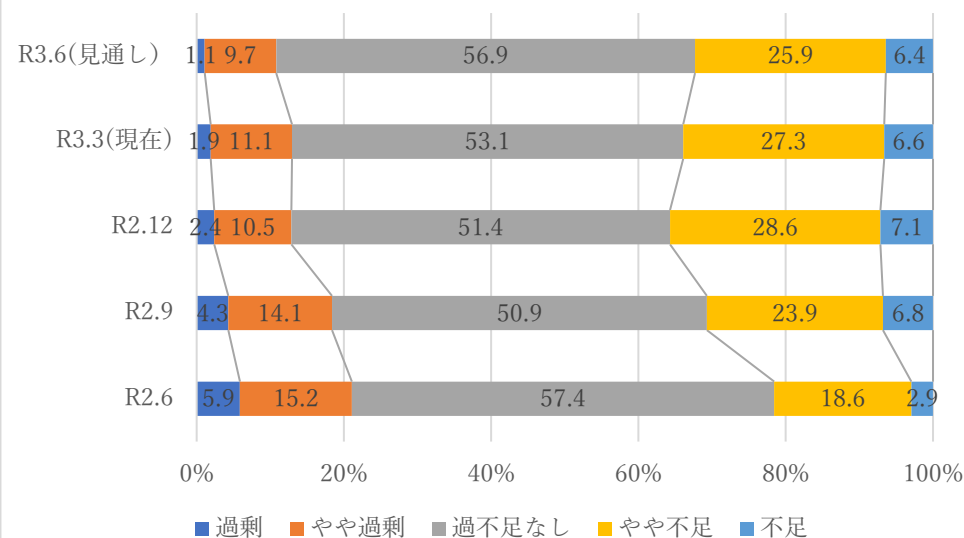
労働力については、「やや不足」「不足」の回答が 33.9%（前回 35.7%）と 1.8 ポイント減少した。また、3 か月後の見込みでは、「やや不足」「不足」の回答が 32.3%と若干の回復見込みとなった。

業種別にみると、建設業では「やや不足」「不足」の回答が 50.9%（前回 71.7%）と 20.8 ポイント改善された。これは、コロナによって止まっていた工事が再開し、急激に受注量が増加した前回調査時（R2. 12 月期）の状況がある程度落ち着き始めたのに加え、冬場の受注量減少に加えて 1 月の大雪による影響で工事現場が止まってしまっていたことが原因と推察された。一方で、小売業では「やや不足」「不足」の回答が 42.9%（前回 33.5%）と 9.4 ポイント増加しており、景況の回復に連動して不足感が強まっていた。

労働力の過不足感



過去 1 年間ににおける労働力の推移（全業種）



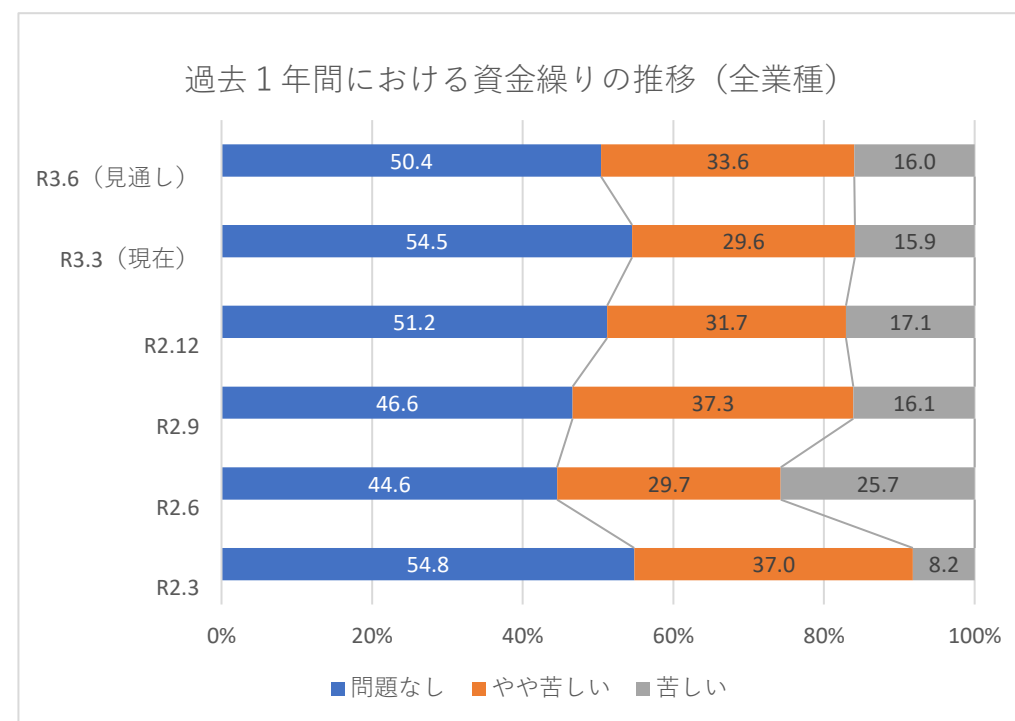
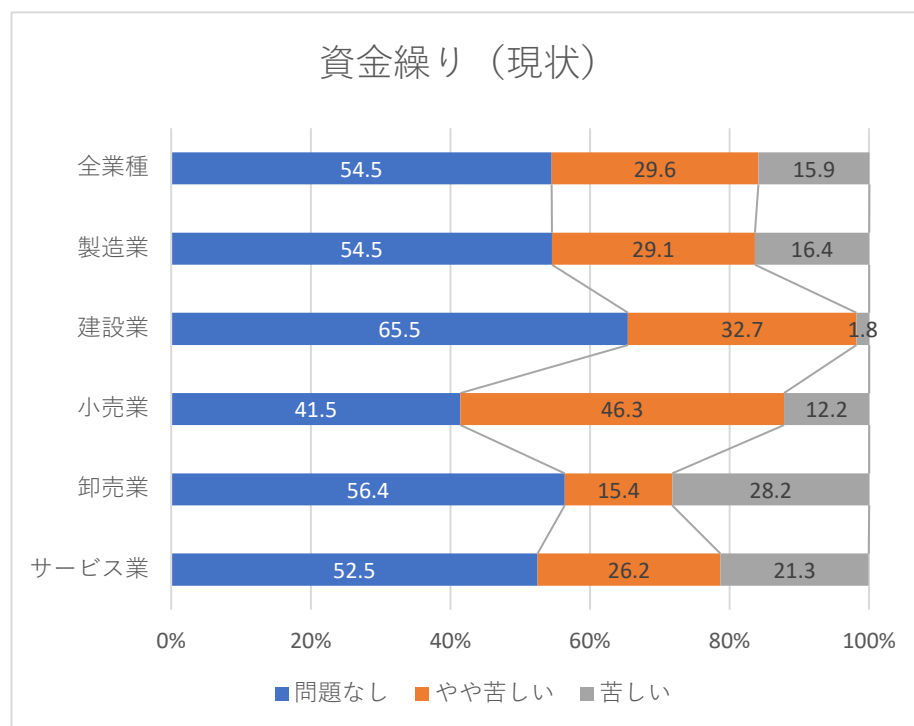
⑧ ―資金繰り―

【小幅な回復が見られる】

現在の資金繰りの状況は「やや苦しい」「苦しい」との回答が45.5%と前回調査時（48.8%）から3.3ポイント改善した。

過去1年間における資金繰りの推移をみると、コロナの影響を最も受けたR2.6月期から徐々に「問題なし」との回答は3期連続で回復し、R2.3期の水準まで回復した。

業種別に見ると、景況感が大きく回復している建設業では、「問題なし」との回答が65.6%（前回58.7%）と回復。また卸売業56.4%（前回40.6%）製造業54.5%（前回42.6%）でも資金繰りの改善が見られた。



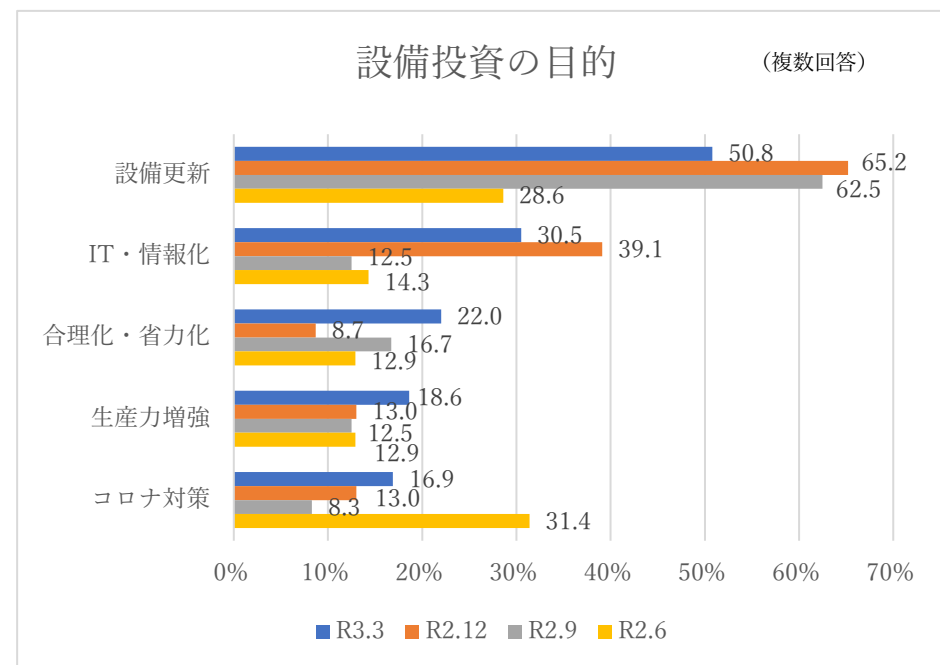
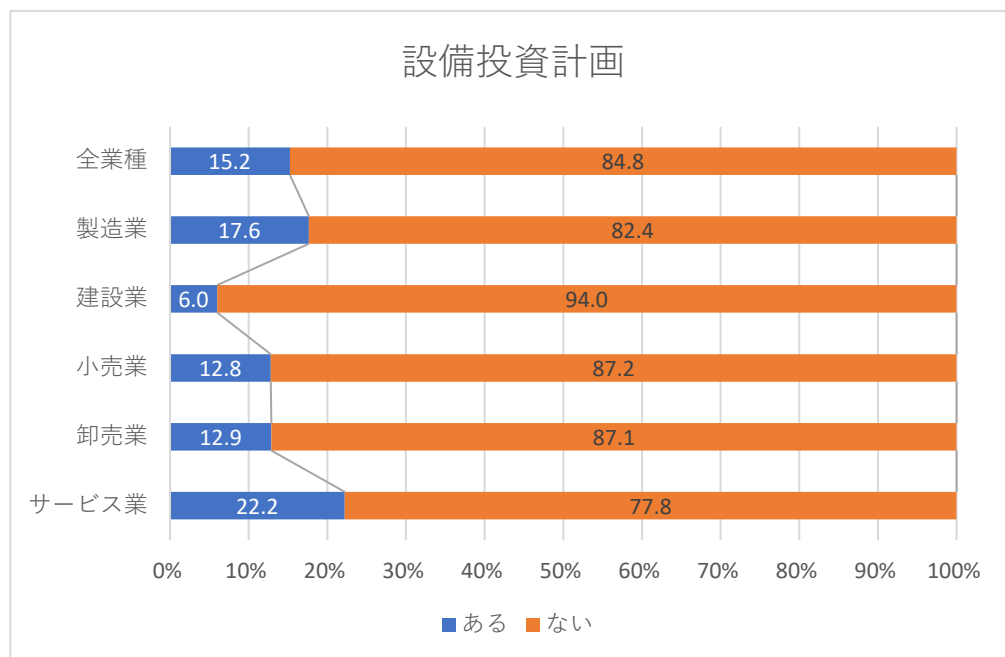
⑨ ―設備投資―

【設備投資の目的に変化 補助金活用による設備投資は続く】

今後3ヵ月以内の設備投資計画では、15.2%（前回12.0%）が「投資計画あり」と回答し、前回調査時（R2.12月期）より3.2ポイント増加した。

業種ごとにみると、「投資計画あり」との回答が卸売業12.9%（前回6.7%）、製造業17.6%（前回12.8%）、サービス業22.2%（前回18.2%）でそれぞれ前回よりポイントが増加した。

今後3ヵ月以内の設備投資の予定があると回答した企業の投資内容では、「設備更新」50.8%（前回65.2%）が引き続き最多の回答となったものの、14.4ポイント急落した。一方で、「合理化・省力化」22.0%（前回8.7%）は13.3ポイント急増し、「生産力増強」18.6%（前回13.0%）もポイントを伸ばしていたことから、設備投資の目的に変化がみられた。



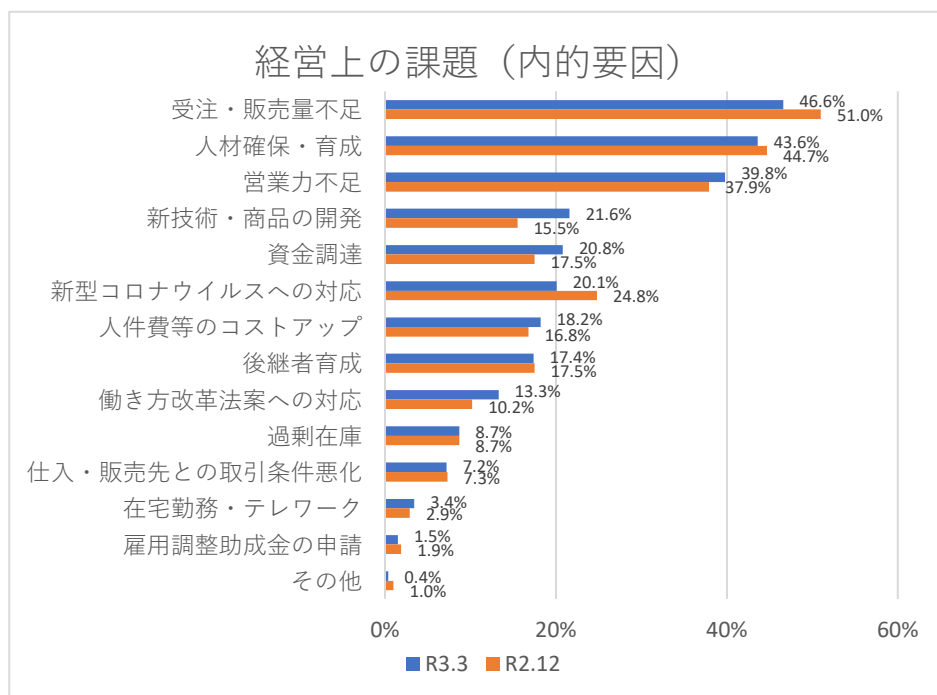
⑩ ―経営課題（内的要因）―

【受注量・販売量不足が3期連続で回復】

経営上の課題（内的要因）では、「受注・販売量不足」が46.6%で最も大きな経営課題であったが、前回調査時に続き3期続けてポイントが減少した。一方で、2期連続でポイントを伸ばしていた「人材確保・育成」は、今回は1.1ポイントの減少となった。「新型コロナウイルスへの対応」は前回調査時（R2.12月期）より4.7ポイント減少し、3期連続での減少となった。

一方で、「新技術・商品の開発」21.6%では6.1ポイント増え、「資金調達」20.8%も3.3ポイントの増加となった。

業種別でみると、前回から大幅にポイントを落としたものの、引き続き建設業では「人材確保・育成」が最大の課題となっているが、前期と比べ22.6ポイントの減少となった。また、サービス業を飲食業とそれ以外の業種に分けてみると、コロナと大雪の影響で客足が遠のいた飲食業では、「資金調達」37.0%（+14.8ポイント）、それ以外の業種では「新技術・商品の開発」23.5%（+12.9ポイント）がそれぞれ急増していた。



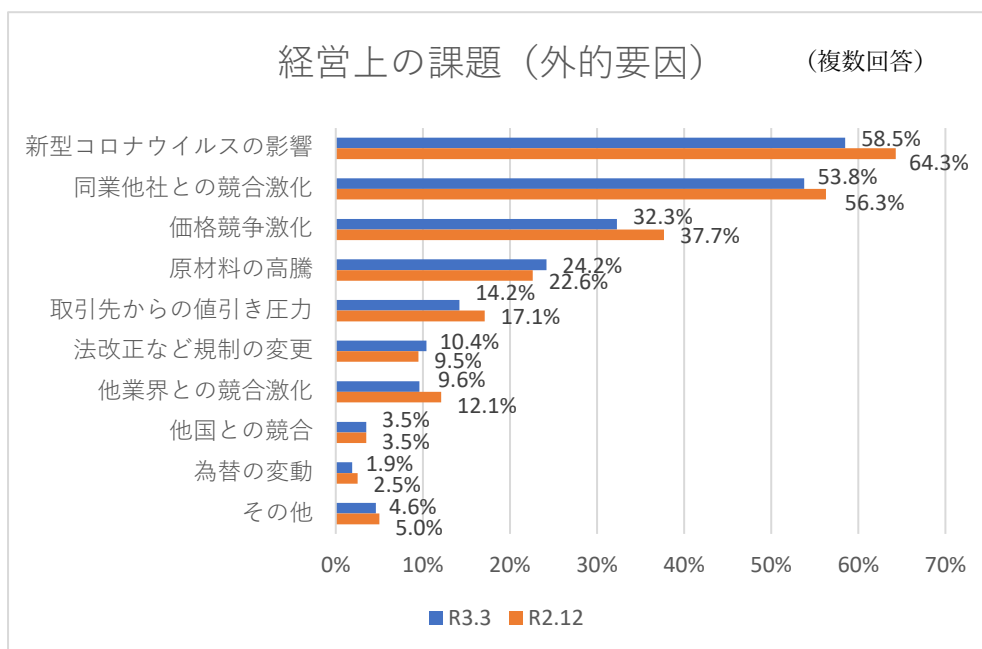
業種別経営課題 (業種別前回比) 【複数回答】			受注・販売量不足	人材確保・育成	営業力不足	新技術・商品の開発
全業種	R3.3		46.6%	43.6%	39.8%	21.6%
	R2.12		51.0%	44.7%	37.9%	15.5%
製造業	R3.3		62.3%	35.8%	43.4%	32.1%
	R2.12		60.0%	37.8%	35.6%	28.9%
建設業	R3.3		29.6%	68.5%	35.2%	13.0%
	R2.12		28.9%	91.1%	40.0%	4.4%
小売業	R3.3		52.5%	35.0%	37.5%	10.0%
	R2.12		62.1%	31.0%	34.5%	10.3%
卸売業	R3.3		64.1%	30.8%	35.9%	25.6%
	R2.12		74.2%	22.6%	35.5%	22.6%
サービス業	R3.3		35.9%	42.3%	43.6%	24.4%
	R2.12		42.9%	32.1%	41.1%	12.5%

⑪ —経営課題（外的要因）—

【同業他社との競合激化が続く】

経営上の課題（外的要因）については、依然として「新型コロナウイルスの影響」58.5%（前回 64.3%）が一番の課題として挙げられたが、R2.6 月期調査時の 74.0%をピークに 3 期連続減少し、続く「同業他社との競合激化」と近い値まで落ち着いてきた。また、前回ポイントを伸ばした「同業他社との競合激化」53.8%（前回 56.3%）、「価格競争激化」32.3%（前回 37.7%）もポイントを落とした。

業種別では、小売業の「同業他社との競合激化」47.4%（前回 67.9%）が大幅にポイントが落とした。対して、卸売業では「同業他社との競合激化」53.8%（前回 38.7%）が急激にポイントが増加し、業種によって課題に大きな動きが見られた。



業種別経営課題（外的要因）【複数回答】						
	全業種	製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業
新型コロナウイルスの影響	58.5%	63.5%	38.9%	57.9%	69.2%	63.6%
同業他社との競合激化	53.8%	50.0%	72.2%	47.4%	53.8%	46.8%
価格競争激化	32.3%	25.0%	44.4%	31.6%	43.6%	23.4%
原材料の高騰	24.2%	26.9%	29.6%	18.4%	28.2%	19.5%
取引先からの値引き圧力	14.2%	13.5%	27.8%	7.9%	17.9%	6.5%
法改正など規制の変更	10.4%	5.8%	13.0%	7.9%	2.6%	16.9%
他業界との競合激化	9.6%	13.5%	9.3%	7.9%	12.8%	6.5%
他国との競合	3.5%	9.6%	0.0%	0.0%	10.3%	0.0%
為替の変動	1.9%	5.8%	1.9%	0.0%	2.6%	0.0%
その他	4.6%	5.8%	0.0%	15.8%	2.6%	2.6%